

昭和47年からツルが訪れていた江ノ村地区をもう一度ツルの越冬地に

四万十つの里づくりの会では、平成19年度から「セブンーイレブンみどりの基金」の特別指定助成を受けて、昭和47年からツルの飛来・越冬の記録があり、現在でもよくツルを見ることができる四万十市江ノ村地区の休耕田でねぐら・えさ場づくりの整備を進めています。その取り組み状況をダイジェストでお伝えします！

1 えさ場・ねぐらの候補地（休耕田）の借り上げ・整備に奔走

① まずは候補地探しと協力依頼から

平成18年度に行った休耕田の実態把握調査の結果をもとに、写真の赤で囲んだ部分（約5ha）で整備を行うことにしました。農地にはたくさんの地権者の方がいます。そのお宅を一軒一軒まわり、休耕田を貸していただくようお願いすることから始めました。

※西谷樋門では、国土交通省が「四万十川自然再生事業」を実施し、「ツルの里づくり」を支援しています。詳しくは裏側の「協働連携」をご覧ください。



② 飛来シーズンに向けて整備開始！

何年も耕していなかった田は雑草でいっぱいでした。8月の炎天下のなか、人の背丈以上にぼうぼうに伸びたセイタカアワダチソウなどを刈りました。その後、火入れや水張りなど、休耕田をもとの水田に戻す作業を、人力と重機の力で約2週間かけて行いました。



③ いよいよもみ撒き

8月末にはもみ撒きを実施。澤田佳長先生の指導のもと、事務局や国土交通省中村河川国道事務所の関係者など総勢約30名でいっせいに作業を行いました。



2 子どもたちに「ツルの里づくり」を紹介

幡多地域でツルの飛来が確認され始めた11月には、「ツルの自然体験学習会」を開催しました（平成19年11月9日、国土交通省の協力で開催）。

参加したのは東中筋中学校・東中筋小学校・中筋小学校の子どもたち58名（その他会員など約30名も参加）。子どもたちはまず、澤田佳長先生の講義でツル越冬の歴史などを学びました。その後、整備中の中山、江ノ村地区のえさ場・ねぐらへ移動し、今回の学習会の目玉である「デコイ」を見学しました。



あとはツルの訪れを待たばかり。「デコイ」を囲んで笑顔の事務局スタッフ！

江ノ村地区の現場では、事務局が当地区の整備に至るまでの経緯と現在の状況について紹介した後、澤田先生が子どもたちの「デコイは何ゾルですか？」「何を食べるのですか？」「大きさは同じですか？」といった質問に答えました。（ちなみに、質問の答えは「ナベヅルです」「稲穂のほか、湿地にすむドジョウや小魚なども食べます」「空から見て目立つように、実物より一回り大きめに作っています」でした。）



「ツルの里づくり」について、現場で説明を聞く子どもたち

中山地区ではデコイの除幕式も！

太陽に向かって
すっと立つデコイが披露目！

ほぼ等身大のツルの模型「デコイ」とは？

「デコイ」とは鳥たちを呼び寄せるための模型です。鉄筋で形を作り、漆喰で表面を塗り固めて作成したデコイは、羽を広げたツル、すっと立っているツル、餌をついばんでいるツルの3体。高さ約110～150cmで、中山地区に1体、江ノ村地区に2体設置されています。

セブンーイレブンみどりの基金とは？

株式会社セブンーイレブン・ジャパンが、「環境」をテーマにした社会貢献活動の実践や支援を目的として設置している基金です。コンビニエンスストア セブンーイレブン店頭での募金と加盟店、セブンーイレブン本部からの寄付金でまかなわれており、四万十つの里づくりの会では平成19年度より3年間、助成をいただきながら取り組みを進めます。